

写真で読み取る「木簡」

木簡は、いにしへの息吹を伝える資料です。黒ずんだ木片に残るわずかな墨を追い、文字を読む。この時、赤外線画像が絶大な威力を発揮します。

しかし、木簡が語る「歴史」には、赤外線画像だけでは表現できないものも多くあるのです。たとえば上下の切り込み部にうっすらと残る白い帯。天平の昔、荷物にくくりつけられていた時の紐の跡です。また、木簡表面に斜めから光をあてると、古代人が木簡を削った刃さばきが浮かび上がります。質感・雰囲気・厚みといった臨場感を伝えるには、全体を斜めから撮影すると効果的です。

木簡は弱い。だから、写真での記録や公表が極めて重要になります。「多様な観察に耐える多角的な写真撮影」。木簡担当の研究者と写真室のカメラマンの永遠のテーマです。

(平城宮跡発掘調査部 馬場 基)

可視光線カラー写真

赤外線デジタル写真

斜めから撮影した表現写真

斜めから光をあてた写真

実寸大

伊豆国賀茂郡賀茂郷廻詩里戸主矢田部刀良麻呂日矢田部刀良調荒堅魚十二斤十兩「十一連」丑
天平七年十月

